

第2節 社会（児童生徒の学ぶ意欲を高める指導法の工夫と学習環境づくり）

1 基本的な考え方

(1) 特定課題に関する調査結果から

国立教育政策研究所が平成19年に実施した「特定課題に関する調査（社会）」では、中学校第3学年において「社会科の勉強が好きですか」の質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合は56.7%であった。また、「社会科の勉強は大切だと思いますか」の質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合は83.6%であった。この結果から考えると、生徒は「社会科の勉強は大切である」や「社会科を勉強すれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ」など、社会科に対する肯定的な見方をしているが、社会科があまり好きだとは思っていない傾向が見られる。

また、文部科学省の「義務教育に関する調査（平成17年実施）」では、社会科において「とても好き」、「まあ好き」を合わせた割合は、小学校第4学年で46.0%、小学校第5学年で43.5%と全教科中で最下位となっている。小学校第6学年では51.8%、中学校第1学年では53.2%と割合が少しあがるものの、中学校第2学年で46.5%と下がり、中学校第3学年では37.9%と下がり、中学校第3学年の割合が最も低くなっている。

こうした調査結果の背景の一つには、知識注入が中心の授業展開がなされており、児童生徒が主体となって学ぶ授業になっていないことが考えられる。平成20年に改訂された中学校学習指導要領において、主体的に学習に取り組む態度を養うことが重視されており、児童生徒が主体となり、自ら学ぶ意欲をもって社会科の学習に取り組む指導が求められている。

(2) 社会科における学ぶ意欲を高める指導法の工夫と学習環境づくりの基本的な考え方

社会科において児童生徒の学ぶ意欲を高めるには、児童生徒が出合った社会的事象に対して問題意識をもち、その解決のために主体的に学習を進めることが必要であると考え。そのためには、まず、児童生徒に様々な社会的事象に触れさせることで、驚きや疑問あるいは興味・関心をもたせ、学びたいという気持ちをおこさせることが重要となる。どのような教材をどのように児童生徒に提示すると学びたいという気持ちになるのか。教材の内容と提示方法の工夫が必要となる。次に、教材を通して児童生徒の学ぶ意欲を持続させるための指導法を工夫するというのも重要である。教材を工夫することで児童生徒の学びたいという意欲を高めた後に、さらにその意欲が持続していくための指導法の工夫が必要となる。こうした教材と指導法の工夫は、児童生徒の学ぶ意欲に大きく影響すると考えられる。

ア 学ぶ意欲を高める指導法の工夫について

児童生徒の学ぶ意欲を持続させるための指導法として、問題解決的な学習を展開するにあたり、児童生徒が自分の考えが表現できる話し合い活動を今回は取り上げる。

授業の導入時に、教材等を通して児童生徒は社会的事象と出会い、驚きや疑問をもち、それを自らの学習問題ととらえ、自分なりの予想を立て、それを裏付けるために調べ、それを基に考えを進めていく。このような問題解決的な学習については今までにも多く取り組まれている。しかし、児童生徒が学習問題を解決するために、単なる調べ学習になってしまったり、調べたことから自分の考えをまとめるだけに終わってしまい、授業の導入で高まった学ぼうとする意欲が低くなってしまいう実践をしぼしば見かける。児童生徒の意欲を持続させるためには、学習問題を解決する過程において新たな疑問をもたせることが必要であると考え

る。そして、新たな疑問をもたせるためには、話し合い活動をさせることが大切だと考える。それは話し合い活動によって、児童生徒は別の考えに触れて、自分の考えを深めたり、広げたり、また自分の考えの正しさを確認したりするなかで、さらに新たな疑問をもち、調べたい、知りたいという意欲が湧いてくると考えるからである。どのような内容や形態で話し合い活動をすれば、より児童生徒の意欲が向上するのかを考えたい。

イ 学ぶ意欲を高める学習環境づくりについて

児童生徒の学習に向かう姿勢や学習に対する心構えを高め、「社会科の学習がしたい」という気持ちにさせるためには、指導法を工夫することはもちろんであるが、学習環境を整えることが有効であると考え。学習環境についてはさまざまな定義がなされているが、本プロジェクトでは学習環境の1つである掲示物を整えることが児童生徒の学ぶ意欲を高めることにつながると考えて研究を行った。

校内には工夫された様々な掲示物があるが、社会科などの学習にかかわる掲示物は、生徒が学習内容に興味・関心をもち考えたいような内容や活用方法などを工夫することで生徒の学びを支えるものとして有効であると考え。

社会科にかかわる掲示物を生徒の学習への意欲を高める掲示物にするためには、掲示物を教材として活用することが有効であると考えた。これは、授業で提示する教材をあらかじめ掲示物として提示し、社会的事象に興味・関心をもち、そしてその掲示物を教材として授業で活用することで、新たな課題から学ぶ意欲を高めていくというものである。社会科としての掲示物を工夫し、授業前から学習環境を整えることで、生徒に学びたいという気持ちをもたせたいと考えた。

(3) 学ぶ意欲を高める指導法の工夫と学習環境づくりの具体策

本プロジェクトでは、生徒の学ぶ意欲を高めるための、教材としての掲示物やその提示の在り方と学ぶ意欲を持続させるための指導法としての話し合い活動の在り方を考察したいと考え、次の仮説を設定した。

生徒が自ら考え、意欲的に学ぶようになるためには、生徒に学習問題をもたせるための教材や社会的事象を掲示物として提示し、自分の考えを表現する活動としての話し合い活動を行うのが有効である。

ア 話し合い活動を取り入れた指導法

学習の場面で行われる話し合い活動は、ねらいに応じて ^{おおむ}概ね形態も決まってくると考えられる。話し合い活動の形態とそのねらいを整理し、下の表のようにまとめた。

話し合いの形態	話し合いのねらい
二人組での話し合い	互いの考えを交流し、自分の考えを確認する。
少人数グループでの話し合い	意見を発表し、他の意見と比較して自分の考えを深める。
全体での話し合い（ディベート式、基調提案式など）	対立する意見をもとに、立場の違いや理由を理解し、問題の解決に向けて考える。

それぞれの形態には長所や短所があると考えられる。どの話し合いの形態が有効であるかは、その学習のねらいや内容によるところが大きいといえる。本研究では、話し合いの形態を「二人組での話し合い」と「少人数グループでの話し合い」の二つにしばり研究を行った。それは今回の研究において、自分が調べたことや考えたことを他の人と交流させ、かかわることで自分の考えを深めていく活動のためには、この二つの形態が有効であると考えたからである。

話し合い活動は、スムーズに進むものではない。そのために教員は意図的に生徒に話し合える力を身に付けさせる必要がある。話し合い活動が成立するためには、次の三点が必要であると考えられる。

- ① 生徒が話し合いのねらいを理解していること。
- ② 話し合いに必要な技術・技能・ルールなどを身に付けていること。
- ③ 生徒が自分の意見を発言できる温かい学級の雰囲気が形成されていること。

教員は生徒に、まず「なぜ話し合いをするのか」、「どんなねらいですか」などを理解させる必要がある。そして次に、生徒の話し合える力を育てるための指導を考えなければならない。そのためには、生徒が進んで意見を考えることができる話し合いのテーマの設定を工夫する必要がある。

話し合いの意味について、藤井（1996年）は、『話し合い活動』とは、生徒どうしの『考え』の『かかわり合い』の場であり、そこから次の学習活動を方向付けてゆく場である。「また『話し合い活動』とは、択一的に『正解』を求める活動ではない。つまり『正解』を決するための『対決』の場ではない。」とし、さらに話し合いのねらいについて『自分なりの考えを深める』ことを目的とした、『かかわり合い』の場である。」としている。生徒が自分の考えをもち寄り、かかわり合って検討することで自分の考えを深めていく。そうしたとき、人に自分の考えが認められて自信をもったり、また自分の考えの足りないところに気づき調べようと思ったり、今までとは違う新たな疑問が生まれてきて調べようと思うのではないか。このような話し合い活動を取り入れることで、生徒の学ぶ意欲が持続するのではないかと考えた。そこで本プロジェクトでは、話し合い活動を次のように定義した。

社会的事象について自分が考えたことをもとに、人とかかわり合うことで自分なりの考えを深め、新たな疑問をもつことで、自ら学ぼうとする活動

なお、話し合い活動を進めるにあたっては、社会科だけで取り組むものではなく、国語科等との関連を図ることが重要である。

イ 掲示物を活用した学習環境

社会科にかかわる掲示物としては、既習事項に関連する話題や新聞記事、生徒が作成したレポートなどが見られる。これらは、生徒が社会的事象に興味・関心をもち、学ぶ意欲を高めることをねらいとしている。しかし、中学校では社会科にかかわる掲示物が少ないのが現状である。

そこで、本プロジェクトではこうした掲示物に着目し、社会科の授業で活用する教材を掲示物としてあらかじめ生徒に見せることで、興味・関心をもたせ学ぶ意欲を高めることができないかと考えた。つまり、社会科の学習内容を掲示物で予告し、学習に対する意識付けを

行い、その掲示物を使って授業を展開するのである。期待される効果として、一つは、次のような学習をするのかが分かることで生徒に興味・関心をもたせやすいこと。もう一つは掲示物の中に発問が示されているので、自分なりに考えた答えが合っているのか確かめるために調べたり、答えを確認するために授業を心待ちにすることが考えられる。そこで本プロジェクトでは掲示物を次のように定義した。

社会的事象に出会い、驚きや疑問をもたせ、知りたい学びたいという意欲を高めるもの

掲示物が生徒の学ぶ意欲を高める効果を発揮するためには、どのようなねらいで掲示物を活用するのか、また、そのためにどのような内容で、どのように見せるのかなどを明確にしてしておく必要がある。そこで生徒に知りたい、学びたいという意欲をもたせることをねらいとして、掲示物を効果的に活用するために次の五点を作成ポイントとした。

- ① カラーの絵や写真などの視覚的要素を整える。
- ② 文字は少なくし、キーワードとなる語句は目立つよう配置する。
- ③ 大きさは模造紙の約半分（78cm×60cm）とする。（廊下の壁に貼れるサイズとし、生徒にとって見やすいサイズとした。）
- ④ 授業での学習内容をクイズ、発問形式にし、考えさせる内容とする。
- ⑤ 授業で学習する約1週間前に掲示し、その後授業で教材として使う。

以上を踏まえ、掲示物を活用し事例研究を行った。

2 事例

本プロジェクトの研究では、中学校1年生の社会科地理的分野と歴史的分野で検証授業を行った。ここでは単元名「都道府県を調べる～奈良県～」を取り上げ考察する。

(1) 単元の構想 単元名「都道府県を調べる～奈良県～」

ア 生徒の姿

本学級の生徒は学習に真面目に取り組み、社会科の学習においては、様々な社会的事象に興味・関心をもち、課題に対して進んで調べたり、考えたりする生徒が多い。事前アンケートの結果を見ても、「社会科の勉強が好きである。」の項目において、「そう思う」「少しそう思う」を合わせると84.6%であったことから、社会科を好意的にとらえていることが伺える。しかし、自分の考えを、グループ内や学級全体で発表する場面になると、数名の決まった生徒が発言してしまうことが多く、他の生徒が自分の考えを発言する場が少なくなっている。

イ 単元の特性

都道府県を調べる学習では、いくつかの都道府県を取り上げ地理的事象を見いだして追究し、地域的特色をとらえさせるとともに、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせることをねらいとしている。本単元を学習する前に、すでにいくつかの都道府県を学習しており、本単元が都道府県を調べる学習の最後となる。

本単元では、生徒が住んでいる奈良県を取り上げる。小学校では自分たちが住む身近な地

域の特色やその地域で暮らす人々の様子を学習している。その学習を踏まえて奈良県全体をとらえ、奈良県の地域的特色や課題を考察し、社会的な見方や考え方を養うことを目的としている。

(2) 単元の目標と評価規準

ア 単元の目標

- 奈良県に対する関心を高め、奈良県の地域的特色をとらえる。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 奈良県の地理的事象から課題を見だし、多面的・多角的に考察する。
(社会的な思考・判断)
- 地図や統計資料を読み取り、考察したことをまとめ発表する。
(資料活用の技能・表現)
- 奈良県の自然環境、人口や産業の特色を理解する。
(社会的事象についての知識・理解)

イ 単元の評価規準

	ア社会的事象への関心・意欲・態度	イ社会的な思考・判断	ウ資料活用の技能・表現	エ社会的事象についての知識・理解
単元の評価規準	・奈良県に対する関心を高め、その調査に意欲的に取り組み、奈良県の地域的特色をとらえようとしている。	・奈良県の地理的事象から課題を見だしそれを環境条件や人々の営みなどに関連付けて多面的・多角的に追究している。	・奈良県に関する地図や統計その他の資料を活用するとともに、考察した過程や結果をまとめたり、発表したりしている。	・奈良県の地域的特色を理解しその知識を身に付けている。

	ア社会的事象への関心・意欲・態度	イ社会的な思考・判断	ウ資料活用の技能・表現	エ社会的事象についての知識・理解
学習における具体の評価	①奈良県の地理的事象に対する関心が高まっている。 ②地図や統計その他の資料を用いて意欲的に地域的特色を調べようとして取り組んでいる。 ③奈良県の地理的事象から見いだした課題をもとに都道府県の地域的特色をとらえようとしている。	①奈良県の諸事象を位置や空間的な広がりなどでとらえ、地理的事象として見いだしている。 ②奈良県の地理的事象をもとにして設定した課題を、地域の環境条件や他地域との結びつきなど人間のかかわりに着目して多面的・多角的に考察している。	①奈良県の地域的特色をとらえるために、地図や統計その他の資料を読み取り、統計のグラフ化などを通して、学習に役立つ情報を適切に選択して活用している。 ②奈良県の地域的特色を追究し考察した過程や結果をまとめたり、発表したりしている。	①地域の環境条件や他地域との結びつきなど人間のかかわりに着目してとらえた奈良県の地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。 ②都道府県規模の地域的特色を地図や統計その他の資料を用いて、地理的なまとめ方や発表

規 準	③都道府県規模の地域 的特色をとらえる課 題を追究するための 視点や方法を考察し 適切に選択している。	の方法を理解し、 その知識を身に付 けている。
--------	---	-------------------------------

(3) 指導と評価の計画（全5時間）

次	時	学 習 内 容	評価規準
1	1	わが国での奈良県の位置、自然、都市及び人口の様子を概観させる。	アー① イー① アー②
2	1	人口増加率や県外就労率から奈良県の人口の特色を理解させる。	アー② エー① アー③ ウー①
3	1	奈良県の伝統産業の特色と林業における現状と課題を考察させる。	イー② エー② ウー③
	2	奈良県の林業の課題からわが国の森林や林業における課題の解決の在り方を考察させる。	アー③ エー② イー③ ウー②

(4) 学ぶ意欲を高める指導の工夫

ア 掲示物を活用した指導

本単元の指導に当たっては教材を掲示物として作成し掲示した。次の五点はその際のポイントである。

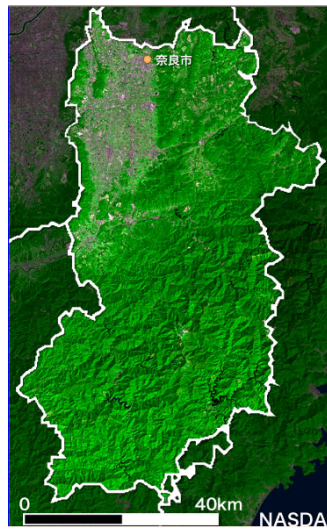
- ① 掲示物のサイズは模造紙の約半分の大きさ（廊下の壁のサイズ）としカラー印刷する。掲示物を拡大し、カラー印刷することで、生徒にとって見やすく、視覚に訴えることをねらった。
- ② 掲示物の内容は写真、地図、グラフ、絵などを取り上げ、文字は少なくし、発問形式とした。発問形式とし、生徒に考えさせることをねらった。
- ③ 掲示場所は学級教室前の廊下に掲示した。教室内ではなく廊下に掲示をしたのは、普段掲示物がないところに貼ることで本学級の生徒をはじめ多くの生徒が見るであろうと考えたからである。
- ④ 掲示物を貼る期間は、授業で活用する前の約1週間とした。これは生徒が見るには十分な期間であり、掲示物を授業で活用するためにはこの期間が適していると考えた。
- ⑤ 掲示物を活用した授業を行う。あらかじめ生徒に教材を掲示物として見せることで、学習内容に興味・関心をもたせるためである。

《第1次で活用した掲示物》

わが国での奈良県の位置、自然、都市及び人口の様子を概観させる。

揭示物 I

人工衛星からみた奈良県



中学校は、どのあたりかな？

色の違いはなにを表しているのかな？

揭示物 II

奈良県の地形



山地や盆地、川の名前を知っているかな？

揭示物 I は、自然や地形、市街地の様子、人口分布、森林面積などについて、第 1 次から第 3 次で何度も活用した。

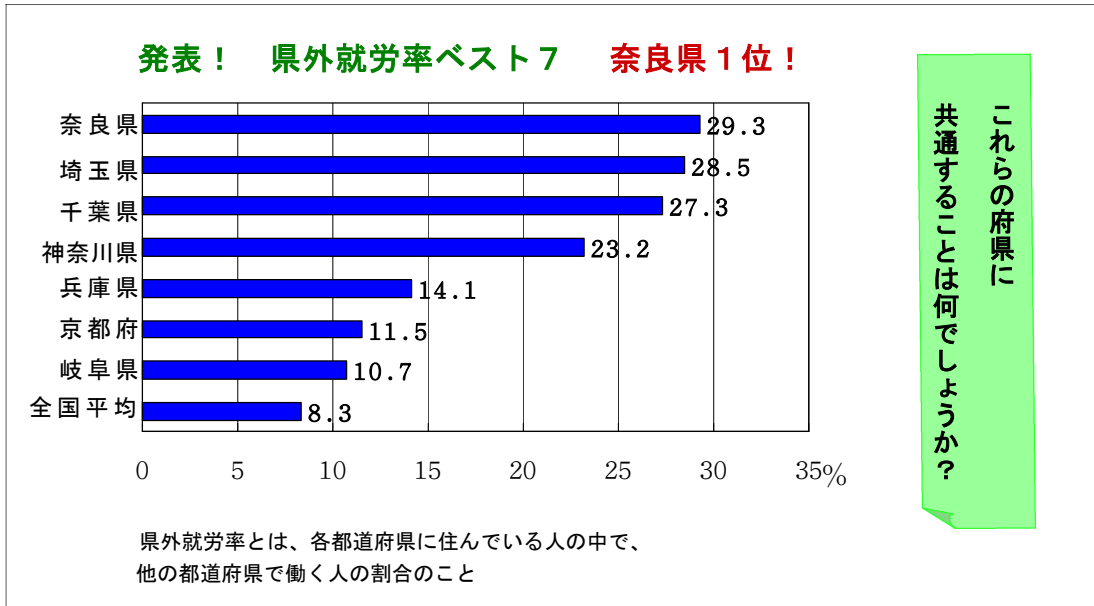
揭示物 II は、具体的な地形名を確認するために第 1 次で活用した。

この 2 枚の揭示物を並べて見せると、生徒は奈良県全体のイメージがつかみやすかったようである。このほか、授業では、人工衛星図と市町村図を組み合わせ活用したが、鉄道、主要道路図などを組み合わせ活用することも可能である。

《第 2 次で活用した揭示物》

人口増加率や県外就労率から奈良県の人口の特色をとらえさせる。

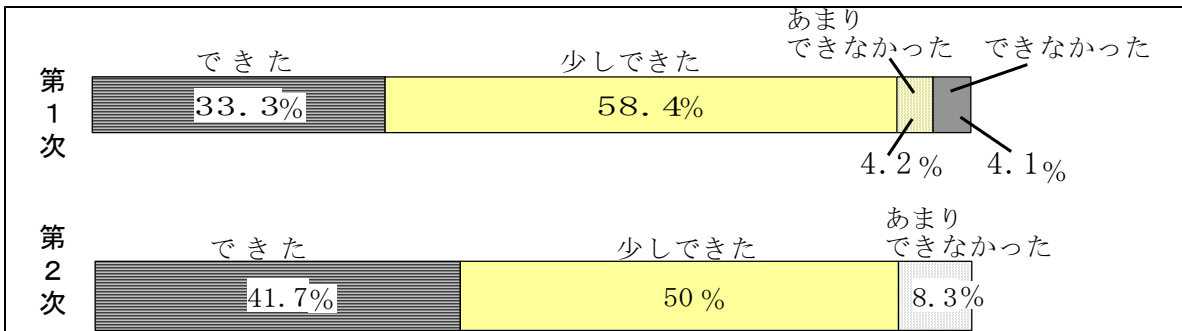
掲示物Ⅲ



掲示物Ⅲは、第2次で奈良県の県外就労率が高い理由や他府県の共通点を考察させるために活用したものである。授業で使うワークシートでは表で示していたが、それをグラフにして見やすくしたものである。授業では、掲示物Ⅲに加え、都道府県別地図を示すことで考察しやすいようにした。生徒はすでにこのグラフを見ていたことから理由や共通点に気づきやすかったようである。

(7) 第1次と第2次 生徒「振り返りシート」の結果

① 「今日の授業は、積極的に取り組むことができましたか？」



② 「今日の授業で興味もてる内容がありましたか？」

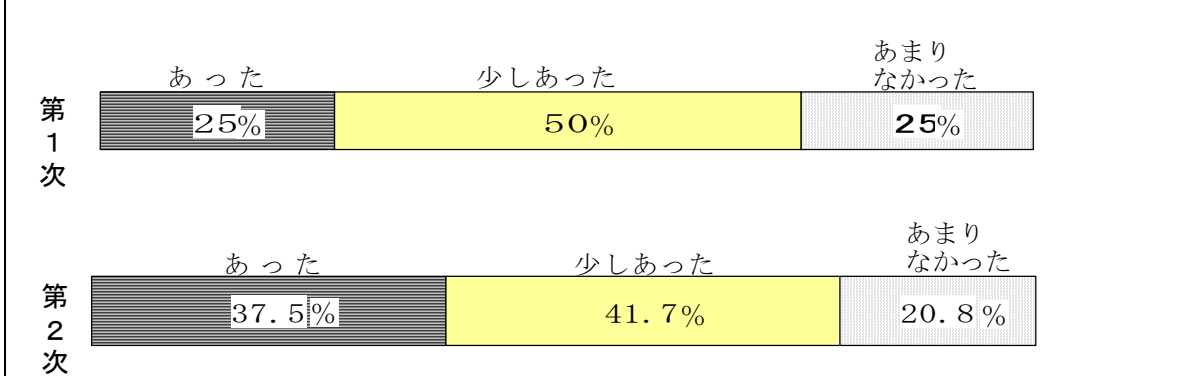


図1 生徒「振り返りシート」の結果

第1次と第2次の授業後の振り返りシートを比較してみると、第2次で積極的に取り組むことができた生徒が増え、また興味をもてる内容があったとする生徒が多くなっている。これは、第2次が第1次よりも、掲示物や資料から情報を読み取り、考察する授業であったため、生徒は課題に対して深く考える場面があったので、積極的に取り組んだり、興味をもてることが多かったといえる。また、第1次と第2次で活用した掲示物を比較すると、掲示物ⅠとⅡは写真や地図を使って県全体の概観をとらえさせることをねらいとし、掲示物Ⅲはグラフをから情報を読み取り、考察させることをねらいとした。そのために掲示物Ⅲは、地図と関連させて考察することで、生徒は県外就労率の高い府県の共通点を考えることができ、共通点があったという達成感から積極的に取り組むことができたと考える。

(イ) 第2次 生徒「振り返りシート」の記述

「掲示物や掲示物を使った学習で興味をもてた内容は何ですか？」

- ・ グラフに出てきた県に共通点があったこと。地図を使うとよく分かった。
- ・ 奈良県などのように大都市に近いと人口が多くなっていること。
- ・ 奈良県の県外就労率が1位である理由。

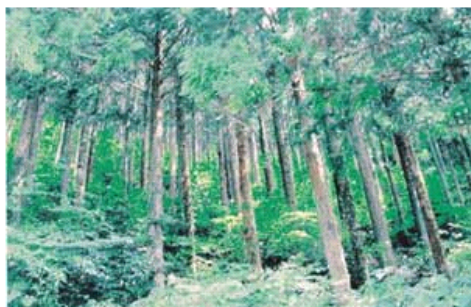
《第3次で活用した掲示物》

奈良県の伝統産業の特色と林業における現状と課題を考察させる。

掲示物Ⅳ

2枚の写真をくらべてみよう！ 森林の写真なんだけど？

A



B



このちがいはどうして起こるのでしょうか？

掲示物Ⅳは、第3次で林業が衰退することによる弊害を話し合う場面で活用したものである。写真を見せることで生徒にとって林業が衰退することによって起こる森林の様子が、理解しやすくなると思った。さらに、写真A、Bの森林のちがいが、手入れをしているかどうかによるものであることに気付かせるために、同時に掲示物Ⅴの①を掲示し、掲示物Ⅳと関連させ、写真A、Bの森林のちがいは間伐が関係していることを理解させた。間伐によって一本ずつ木を大きくし、健全な森林に育てるためには間伐の作業が必要であることを理解できたようである。

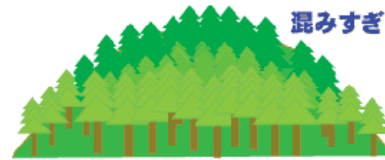
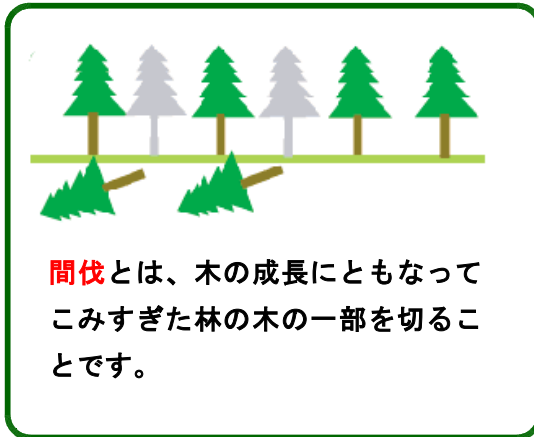
《第3次で活用した掲示物》

奈良県の林業の課題からわが国の森林や林業における課題の解決の在り方を考察させる。

掲示物V

①

林業の作業の1つに、間伐があります。



間伐

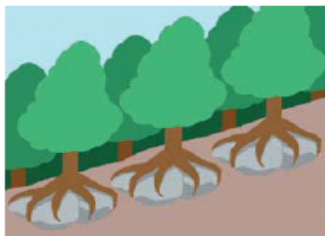


健全な森林に育つ

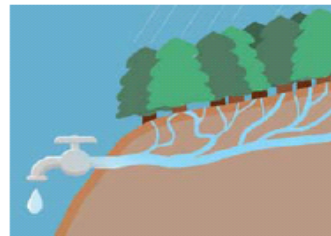
林野庁ホームページより作成

②

森林には、こんなはたらきがあるよ



山がくずれるのを防ぐ



水をたくわえ、きれいにする

ほかに どんなはたらきがあるのかを考えてみましょう

掲示物V②は、第3次の2時間目に活用したものである。生徒に林業が衰退することによる問題点を話し合い発表させた後、その問題点の一つである「森林の機能が生かされない」ことを説明するときに提示した。生徒からは掲示物にあるはたらき以外に、「二酸化炭素を吸収するはたらき」などが出された。

(ウ) 第3次 生徒「振り返りシート」の結果

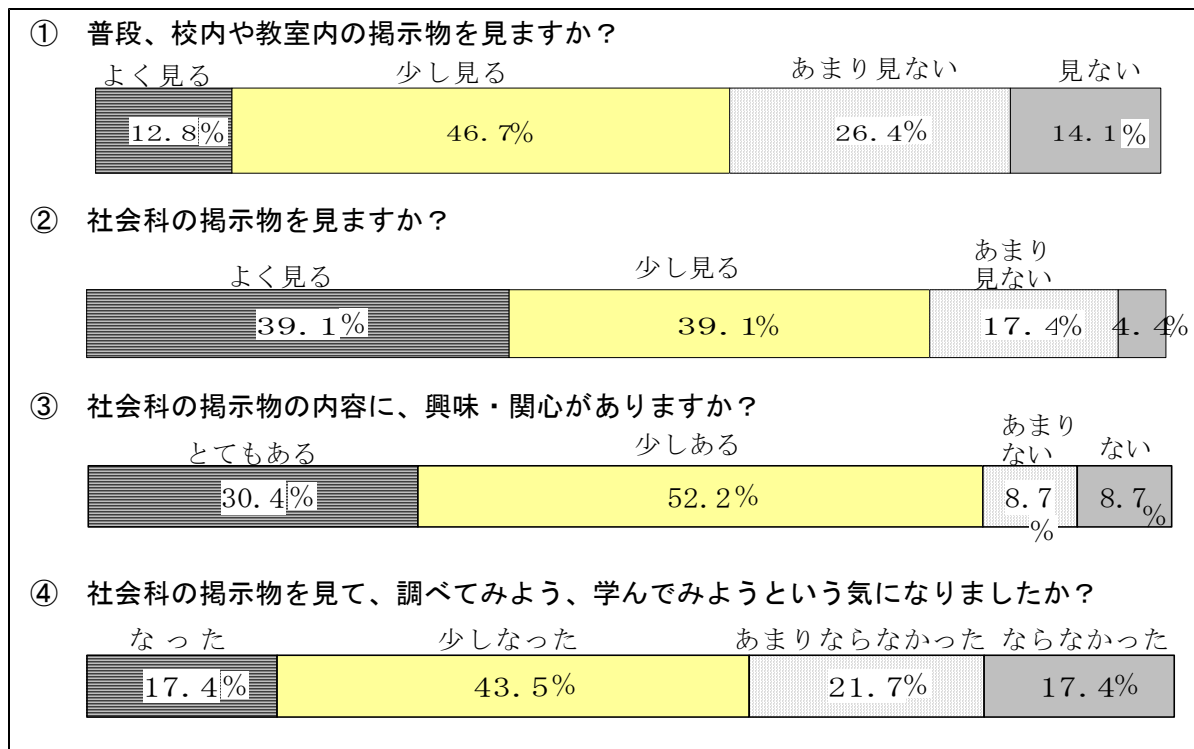


図2 生徒「ふりかえりシート」の結果

第3次の授業後に実施した「振り返りシート」では、掲示物に関する質問をした。この結果から、生徒が普段校内の掲示物をよく見ているとは言い難い。それは、校内の掲示物が長期間貼ったままになっている場合が多く、生徒は掲示物に強い関心をもってはいないからである。それに対して、社会科の掲示物については、「よく見る」と回答した生徒が多かった。それは、今までにないめずらしい掲示物に関心をもったからであり、また、掲示した後に授業で使われる掲示物であるため、その内容に興味・関心が高まったと考える。しかし、掲示物を見て、調べてみよう、学んでみようという気になったと回答した生徒の割合は低かった。このことから、掲示物の内容に興味・関心をもったとしても、自ら進んで調べてみようとする意識が低いことが分かる。これは生徒が掲示物を見て発問に対する自分なりの答えを考えると、それで終わってしまい、さらに調べたり、学んでみようという気にはならないからであると考えられる。

イ 話し合い活動を取り入れた指導

(7) 話し合い活動のねらいと形態

本単元の指導にあたっては、ねらいや内容に応じて話し合い活動の形態を「二人組での意見交換」と「少人数グループでの話し合い」として授業を展開する。「二人組での意見交換」では、自分の考えを相手に伝えることで、自分の考えを確かめることをねらいとして実施した。また、2名で交流することで自分の意見を出しやすくするのもねらいである。「少人数グループでの話し合い」では、自分の意見を発表し、他の意見を聞いて自分の考えを深めることをねらいとして4名1グループで実施する。4名1グループとしたのは、できるだけ自分の考えを発表しやすく、また他の意見を聞き取りやすい人数だからである。学級では6名～7名の生活班で話し合い活動が行われているが、6名～7名が1グループでは、話し合いに多くの時

間がかかり、同じような意見が出されてしまうことも多い。また、1グループの人数が多いと意見を発表せずに終わってしまう生徒も見られる。4人1グループはあらかじめ座席をもとに決めておいた。「二人組での意見交換」は、授業の導入部分や学習問題を提示する場面で、座席の隣どうしでペアを組ませて実施した。「小人数グループでの話し合い」は、授業の展開部分で実施し、特に学習問題の解決にかかわる内容を話し合った。

(イ) 話し合い活動を進めるための方法

話し合い活動に生徒を進んで取り組ませるには、生徒が意見を出しやすいテーマの設定や手順などの技能とルールが必要だと考え、以下のように整理した。

- 生徒に話し合いのねらいを理解させ、考えを進んで発言できる雰囲気をつくる。
- 学習問題と関連付け、生徒が進んで考えることのできるテーマを設定する。
- 話し合いの手順やルールを生徒に理解させる。
 - ・司会をあらかじめ決めておき、事前に話し合いの手順を説明しておく。
 - ・最初は全員が一人ずつ意見を発表する。その際、各自で出された意見をワークシートにメモさせる。
 - ・意見を聞いて質問させる。次に、意見を聞いて感想を発表させる。
 - ・グループを代表して、自分の意見とグループで出された意見を発表させる。
 - ・最初に考えた意見とグループで出された意見を比較して、自分の考えをまとめさせる。

(ウ) 話し合い活動の指導計画

次	時	学習内容	話し合い活動の形態および内容
1	1	わが国での奈良県の位置、自然、都市及び人口の様子を概観させる。	①【二人組】奈良県の地理や歴史にかかわることで知っていることを出し合う。 ②【二人組】奈良県で人口が多い都市を調べ、その都市になぜ人口が集まるのかを考える。
2	1	人口増加率や県外就労率から奈良県の人口の特色を理解させる。	①【二人組】奈良県内で人口増加率の高い市町村の共通点を考える。 ②【二人組】県外就業率が高い都道府県の共通点を考える。 ③【小人数グループ】人口が集中することによる長所と短所を考える。
3	1	奈良県の伝統産業の特色と林業における現状	①【二人組】奈良県の伝統産業で知


	と課題を考察させる。	っていることを出し合う。 ②【二人組】森林の写真を見て、思ったことを出し合う。
2	奈良県の林業の課題からわが国の森林や林業における課題の解決の在り方を考察させる。	①【二人組】林業従事者の減少と木材価格はどのような関係にあるのかを考える。 ②【少人数グループ】森林について考える。 ・「林業が衰退するとどのような問題が起こるのだろうか。」 ・「森林を元気にするために、どのようなことができるだろうか。」


(5) 指導の実際

ア 本時のねらい (第3次 2時間目)

- ・森林や林業に関心をもち、これからの林業の在り方について進んで調べようとする。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・森林や林業の現状に関する様々な資料を読み取り、考察しその結果をまとめたり、発表したりしている。
(資料活用の技能・表現)
- ・わが国の森林や林業における課題を追究するために調べ、その解決の在り方を考察する。
(社会的な思考・判断)

イ 展開

	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	備考
導 入	○前時に学習した内容を復習をする。	○奈良県の地場産業や林業について復習させる。	○人工衛星図 (掲示物 I、II)
展	<div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【学習問題】 森林を元気にするためにどのようなことに取り組めばよいのだろうか。</p> </div> ○奈良県の林業の現状と課題を考える。 ○林業就労率が下がった原因を二人組で意見交換する。	○奈良県の林業従事者の推移から現状をとらえさせる。 ○林業就労率がなぜ下がったのかを考え、意見交換をした後に、新たな疑問など、自分の考えをまとめ、ワークシートに記入させる。	 ○奈良県の林業従事者の推移のグラフ、国産・外国産の木材価格の推移のグラフ ○ワークシート

<p>開</p>	<p>○少人数グループで話し合う。 【テーマ1】「林業が衰退するとどのような問題が起こるのだろうか。」 【テーマ2】「森林を元気にするためには、どのようなことに取り組めばよいのだろうか。」</p> <p>○各グループでの意見を発表する。</p>	<p>○林業が衰退することによる弊害を考えさせる。(衰退するとどのような問題が起こるのか?) 「森林の機能をはたしていないため、山崩れが起こる。」など。 ○森林を元気にするために、どのような事に取り組めばよいのかを考えさせる。奈良県森林環境税、木工品の工夫(割り箸)など。 ○話し合いの後、新たな疑問など、自分の考えをワークシートにまとめさせる。</p> <p>○グループの代表者に意見を発表させる。発表された意見をワークシートにまとめさせる。</p>	<p>○手入れしていない森林の写真(掲示物Ⅳ) ○間伐と森林のはたらき(掲示物Ⅴ)</p> <p>○ワークシート</p> 
<p>終末</p>	<p>○本時に学習したことを振り返りシートに記入する。</p>	<p>○本時の学習で分かったことを記入させる。</p>	<p>振り返りシート</p>

ウ 考察

本時では、掲示物Ⅰと掲示物Ⅱを導入で活用し、さらに掲示物Ⅳと掲示物Ⅴを林業の衰退により起こる問題を考える場面で提示した。掲示物は、生徒にとっては事前に見ていることもあって、掲示物を使つての考察はしやすかったようである。また、掲示物を前時の復習の場面に生徒に見せて活用したことで、学習内容の定着を図ることができた。

二人組での意見交換は、回数を重ねることで定着してきた。生徒に意欲的に考えさせるためには、分かりやすい話し合いのテーマと考察するための資料の準備が必要となる。本時では、奈良県の林業従事者の推移や木材価格の推移を示したグラフを使用した。グラフから林業従事者が減少していることを読み取らせ、そのことと木材価格がどのように関係するかを考えさせ、互いに意見交換させると様々な意見が出された。意見を考えさせるときは、考察させるための資料としてグラフが効果的であると考えている。

少人数グループでの話し合い活動では、テーマⅠについては掲示物から考察する生徒が多かった。テーマⅡについては様々な意見が出された。実現できる意見やそうでないものもあったが、考えを出し合い、出された考えからグループとしての意見をまとめることで、生徒が互いにかかわっていた。また、話し合い活動後に記入したワークシートには、自分の意見と他の人の意見を比べ、他の意見を尊重するなど多角的なもののとらえ方を生徒も見られた。

(6) 成果と課題

ア 成果

(7) アンケート結果より

事前のアンケート(9月実施)と事後のアンケート(12月)の結果を比較してみると、「授

業で学習した内容に興味や関心をもつことが多い。」「授業で社会のことをもっと学びたい。」の項目において、「そう思う」「少しそう思う」の割合が事後アンケートで増加している。これは、学習内容にかかわる教材を掲示物として授業の前に生徒に提示することで、生徒は事前に掲示物の内容を考えることができ、またその掲示物を授業に活用したことから、授業ではさらに深く考えることができたためと考える。

また、話し合い活動については、「授業中、話し合いに積極的に参加している」の項目において、「そう思う」「少しそう思う」と答えた生徒の割合が、9月と比べて12月に増えたことから、話し合い活動で自分の考えを発言する生徒が多くなったと考えられる。

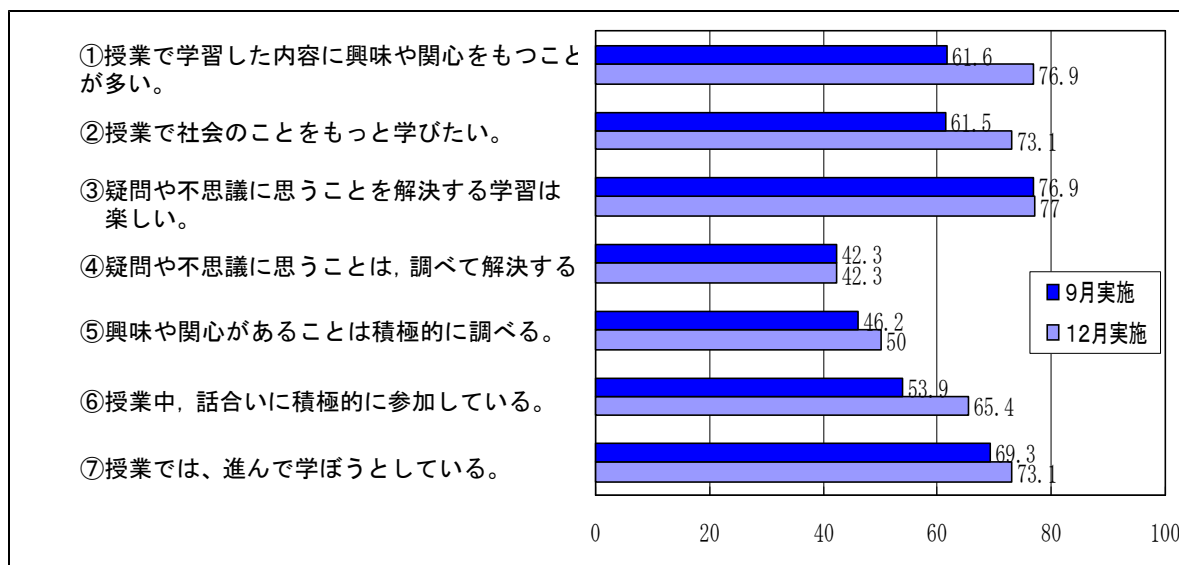


図3 事前アンケートと事後アンケートでの「そう思う」「少しそう思う」の割合

(イ) 掲示物を活用した指導の成果

- ・ 掲示物の内容をクイズ・発問形式としたため、生徒はその発問に対する答えを考えている場合が多く、授業でその掲示物を使って発問すると積極的に発言する生徒が増えた。
- ・ 掲示する期間を授業前の1週間としていたが、多くの生徒はこの期間に掲示物を見ていたようである。また、生徒が掲示物を見てから早い時期に授業で活用するためには1週間が適当であった。
- ・ 掲示物を授業で活用したため、生徒は事前に学習内容の一部を見て考えることができた。授業中の生徒の発言の様子から、授業に臨む姿勢が意欲的になった生徒が多く見られた。

(ウ) 話し合い活動を取り入れた指導の成果

- ・ アンケート結果から、「話し合いに積極的に参加している」と回答した生徒が増えている。このことから、「二人組での情報交流」では、互いに意見を出し合うことが増えたと考える。また、「少人数グループでの話し合い」でも、事前アンケートを実施した時は、6名～7名のグループでの話し合いであったが、事後アンケートを実施した時は、4名1グループ話し合いであったので、意見を発表する生徒が増えたと考える。

イ 課題

掲示物の内容については、生徒作品を取り入れたり、形式については、クイズ・発問形式以外に物語やフローチャートなどの形式も工夫し取り入れる必要がある。

話し合い活動をスムーズに進め、意見を活発に出させるためには、自ら考えるためのテーマ

の設定やそのための資料を整えることが必要である。また社会科の授業だけでなく、各教科・領域において話合いの手順やルールを基に話合い活動を積極的に取り入れることや誰でもが自らの考えを発言できる雰囲気や学級内に醸成することが必要である。

生徒の学ぶ意欲を測るためにアンケートや授業後の振り返りシートを実施したが、シートについては、実施の時期や回数、質問項目の内容などをさらに精選することが今後の課題である。

参考・引用文献

- (1) 文部科学省(2005年)『義務教育に関する調査』
- (2) 文部科学省(2008年)『中学校学習指導要領解説 社会編』
- (3) 国立教育政策研究所(2007年)「特定課題に関する調査(社会)」
- (4) 川崎市総合教育センター 社会科研究会議(2005年)「子どもの意欲が連続する社会科学習の在り方」
- (5) 藤井千春(1996年)『問題解決学習のストラテジー』明治図書